

福島・荒井猫田遺跡 あらいねこた

- 1 所在地 福島県郡山市字川向、安積町日出山
- 2 調査期間 第一三次調査 一九九九年(平11) 四月～二〇〇〇年三月
- 3 発掘機関 郡山市教育委員会・(財)郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団
- 4 調査担当者 高田 勝・中島雄一・佐久間正明・工藤健吾
- 5 遺跡の種類 町跡及び館跡
- 6 遺跡の年代 一二世紀後半～一五世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(郡山)

遺跡は、JR東北線郡山駅から南南西約三・二kmの地点にあり、市内中央を南北に貫流する阿武隈川の左岸低位段丘面に占地する。この遺跡の発掘調査は、郡山南拠点土地地区画整理事業に伴い、一九九六年度より実施しており、昨年度ま

での調査で以下の三地区に大きく分けられることが判明した。

館跡地区(Ⅱ区) 一三世紀～一五世紀の在地領主の館跡地区。堀

や溝で区画された四つの曲輪を検出。

町跡地区(Ⅲ区) 南北道路跡の両側に形成された一二世紀後半～

一五世紀前半の町跡地区。道路跡路面上には、

大別して新旧二時期の木戸の痕跡を検出。

第三地区(Ⅳ区) 前二地区から外れた遺構密度の低い地区。

これら三地区の位置関係は、館跡地区の南から東にかけて南西～

北東方向に流れる河川があり、河川の南東対岸が町跡地区で、この

町跡地区の西側で館跡地区からは南対岸に相当する部分が第三地区

である(郡山市教育委員会・(財)郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団「荒井猫

田遺跡」第一次～六次発掘調査報告「一九九八年」、同「第七次～

一〇次発掘調査報告「一九九九年」、同「第一次発掘調査報告「

一九九九年」。

一九九九年度は、館跡地区の東端部や町跡地区の北部、両地区の

境となる河川二地点の調査を主に行なった。その結果、館跡地区で

は、周囲を堀や溝で区画された場所を新たに二カ所以上検出し、館

跡が地籍図上の範囲よりもさらに東へ広がることを確認した。また、

町跡地区の調査では、南北道路が急激に東へ向きを変えること、そ

の両側には先の調査と同様に柱穴群や井戸、区画のための堀・溝が

多数あること、北西の河川や南北道路西側溝からこの河川に向かっ

て延びる溝が同地区の北の境界になること、などが判明した。

両地区の境となる河川は、最大幅約一四m、検出面からの深さ一m前後を測る。調査では、中世の水運に関わる遺構の検出が期待されたが、今回は底面に複数の流路を検出したのみで、その痕跡は確認できなかった。

遺物は、輸入磁器（青磁・白磁・青白磁）、国産陶器（常滑・古瀬戸・渥美・在地産）、土師質土器、木製品（曲物・折敷・箸・漆器・下駄・木簡など）、石製品（石臼・石鉢・石塔・板碑・砥石）、鉄製品、古銭、羽口、鉄滓などがある。木製品が比較的良好な状態で遺存していた。

今回報告する木簡は、すべて河川の底面直上層より点在して出土した。同層からは他に須恵器・輸入磁器・国産陶器・漆器碗などが出土しており、陶磁器類の年代は一三世紀～一五世紀にわたる。整理途上にあるためすべての木簡の抽出はできていないが、現時点では八〇点あまりを確認している。他に町跡地区の井戸からも出土しており、今後整理が進めばさらにその数は増えると思われる。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「符録」鬼急々如律令 □ (166) × 22 × 3 061
〔バンアピ ラウンケン〕
- (2) 「符録」鬼急々如律令 (207) × 15 × 2 061
〔バンアピ ラウンケン〕
- (3) 「符録」鬼急々如律令 (95) × 14 × 0.8 061
〔バンアピ ラウンケン〕

- (4) 「^(バン)大日如来 (251) × 14 × 7 061
〔^(バン)大日如来
- (5) 「^(バン)大日如来 (220) × 17 × 1 061
〔^(バン)大日如来
- (6) 「^(バン)大日如来 (214) × 15 × 0.8 061
〔^(バン)大日如来
- (7) 「^(バン)大日如来 (135) × 20 × 3 061
〔^(バン)大日如来
- (8) 「^(バン)大日如来 □ (124) × 19 × 1 061
〔^(バン)大日如来 □ □
- (9) 「^(バン)南無大日如来 (188) × 12 × 0.5 061
〔^(バン)南無大日如来

現時点で文字の判読できているもの九点を掲げた。いずれも上端を圭頭状とし、下端を遺存するものは鋭く尖らせている。

(1)は符録と呪句「急々如律令」が記され、その下にもう一文字みられる。符録は「日」と「月」六文字を三行二段に組合せ、その下に「鬼」を書いているようである。

(2)は笹塔婆である。(2)(3)はすべて梵字で記されている。すべて大日如来を表わしたもので、梵字は(2)(3)が金剛界大日如来と胎藏界大日如来真言の組合せ、他は金剛界大日如来を表わしている。

9 関係文献

佐久間正明「河川跡から木簡出土」(財)郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団『郡山埋文ニュース』一五五 二〇〇〇年 (高田 勝)

